



# あいはら

2025. 1. 31

町田市立相原小学校

校長 百田 明弘

学校便り NO. 10



## 「わかろうとする努力」

副校長 仙石 真也

暦の上ではもうすぐ「立春」。室内にいと窓越しにポカポカとお日様の温かさ、ありがたさを感じます。少しずつ春が近付いているようです。しかし、一歩外に出ると北風の冷たさが身に染みる日もまだまだこれからありそうです。



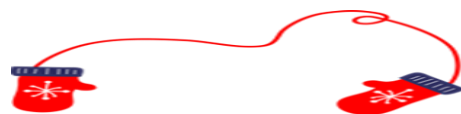
そのような中ですが、校庭では子供たちは鉄棒や雲梯の練習に励んだり、友達と追いかけてこやボール遊びをしたりしている姿が見られます。寒い中ですが子供たちは元気に学校生活を楽しんでいるようです。

子供たちの中には、遊びの中で友達同士のトラブルがあったり、自分の思うようにならなかったりすることも多々あります。そうすると、イライラがたまり、良くない行動で表してしまうこともあります。その際は、その子たちにどんなことがあったのか、どんな思いをもっていたのかを聞き取ることを大切にしています。そして、その時の一人一人の思いを想像し、こういうことだったんだと受け止めた上で、反省すべきところや、指導すべきところは毅然と指導するように心がけています。

先日、あるカウンセラーの先生の話聞く機会があり、その中で印象的なお話がありましたので、少し紹介します。

それは、「ほめる」ことは当然大切ですが、「ほめる」ことが無い(?)こともあります。私は、「ほめる」ことよりも、「その子が何をしたかったのかを分かってあげる努力と、わかってあげたことを子供に返すこと」をおすすめしています、というお話でした。

この話を聞いて、自分なりの解釈を加えると、何かの行動があり、その行動に対して、「なぜ、この子はこんな行動をとったのだろうか？」と子供の様子を観察し、一生懸命考えます。一生懸命考えてもわからないときがありますが、その努力をすることが、子供に伝わるのではないかと感じました。また、もし何か発見できた時は、その子に対して「こんな気持ちだったんだね。」と言葉で返してあげることで、子供は理解してくれた、わかってくれたという安心感をもってくれるのではないかと思います。もちろん、いけない行動に対しては、毅然とした態度で注意するのですが、注意や指導だけで終わらず、気持ちを理解しようとする姿勢（わかろうと努力すること）を子供に見せることで、子供は「わかってくれた」「わかろうとしてくれた」という思いをもち、信頼関係がさらに深まるのではないかと思います。また、こうしたことを学校と家庭とが協力して、同じ方向を向いて子供を見守っていくことができれば、それが、少しずつ子供の成長につながっていくのではないかと思います。是非、一緒に子供の思いを探り、指導と理解の両方のバランスを取りながら、見守っていただきたいと思います。今後ともよろしくお祈りします。



学校評価回答、また個人面談ありがとうございました。今後とも、学校にご質問、ご要望などありましたら、いつでもご連絡ください。ご理解、ご協力よろしくお祈りします。

電話042-771-2341【音声案内時間帯はPM5:00-AM7:30となります。】